



学校だより

札幌市立駒岡小学校
令和5年4月28日
第2号

「憧れ」という思いの大切さ

駒岡小学校 教頭

4月、今年度のスタートから1か月が過ぎました。短い期間の中でも、駒岡小学校の子どもたちのよいところや優しいところが、たくさん見られました。

その中心となっているのが、駒岡小学校が誇る6年生の子どもたちです。朝の真駒内駅で、時間になると下級生を乗り場まで連れていく姿。帰りのバスで料金の支払いを間違えてしまった子に寄り添い、運転手さんに事情を説明する姿。今年度から始まったスーパーロング中休みに向けて、全校児童に、その過ごし方を朝の放送で知らせる取組。今後の活動に見通しをもち、学校林整備プロジェクトを立ち上げ、下級生と一緒に活動する場面……例を挙げればきりがありません。



どの子も、自分のことだけではなく、相手のことや学校全体をよくするために考えている姿が頼もしいです。このような姿を見て、下級生たちは、「すごいなあ。」「かっこいいなあ。」「憧れ」の気持ちをもっています。この「憧れ」の気持ちが、自分もあんな風になりたい、次は自分がやってみようという思いにつながっていきます。

今年度、駒岡小学校では、「『自然・人・未来』とつながり、なりたい自分を見つけ主体的に活動する子どもの育成」を重点に掲げています。

子どもたちが、「どんなことがしたいか」を引き出し、そのためには何が必要なのかを考えることが、この重点に向かうスタートだと考えます。

学校生活という、多くの人との関わりが基本となる毎日では、自分がやりたいことを実行するためには、周囲の人の協力を得なければいけないことが多くあります。自分の、あるいは自分たちの「やってみよう」を実現するために、何をすべきか考え、周囲の人と協力して様々なことに挑戦することは、大きな成長につながります。

失敗することもあるかもしれませんが、目標がはっきりしていれば、次にどうすればよいか考えることができます。そして、自分の考えや思いを受け入れてもらい、成功した経験を得ることで、自信をもって次の活動に進むことができるでしょう。

教職員一同、子どもたちの「やってみよう」に寄り添い、子どもたちの思いを大切に考えて関わっていきます。保護者の皆様や地域の皆様にも、子どもの生き生きと輝く姿をご覧いただき、ほめていただければ幸いです。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

